



# スパークス・プレミアム・日本超小型株式ファンド

## 愛称: 価値発掘

マンスリーレポート  
基準日 2020年3月31日

### 【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)	
	ファンド	MSCI Japan Micro Cap指数(配当込み)	第5期 2018/01/22	200
過去1ヵ月間	-9.49	-5.90	第6期 2018/07/23	200
過去3ヵ月間	-26.29	-23.27	第7期 2019/01/22	100
過去6ヵ月間	-16.41	-13.48	第8期 2019/07/22	100
過去1年間	-17.07	-14.24	第9期 2020/01/22	100
過去3年間	0.77	-2.54	設定来累計	900
設定来	43.79	28.70		

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

### 【資産別構成】

資産種類	比率(%)
株式	93.0
投資信託証券	0.0
その他株式関連証券	0.0
現金その他	7.0

※比率は対純資産総額

### 【株式市場別構成】

市場	比率(%)
東証1部	61.7
ジャスダック	12.6
東証マザーズ	9.7
東証2部	9.0
その他市場	0.0
株式組入比率	93.0

※比率は対純資産総額

### 【株式規模別構成】

株式規模	比率(%)
超小型株	81.9
小型株	11.1
中型株	0.0
大型株	0.0

※比率は対純資産総額

※「株式規模」はスパークス・アセット・マネジメントにより次のとおり定義  
超小型株 時価総額合計の下部2%以下  
小型株 時価総額合計の下部15%~2%  
中型株 時価総額合計の下部30%~15%  
大型株 時価総額合計の上部70%以上

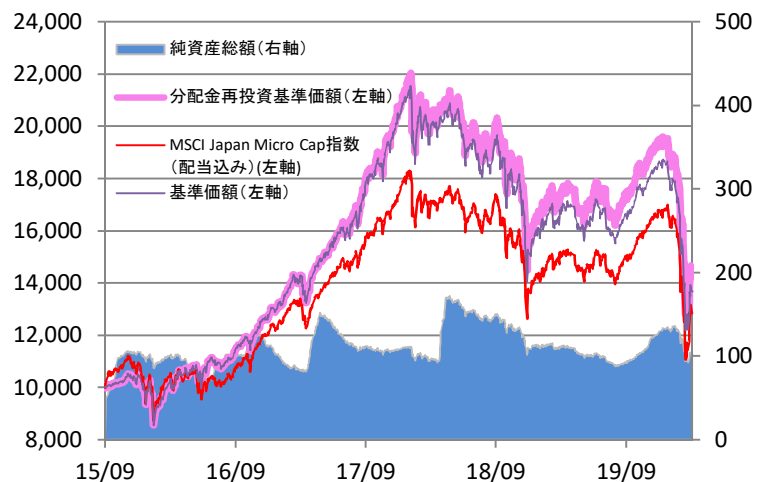
### 【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
13,680円	13,612円	102.74億円

ハイ・ウォーター・マーク 20,417円

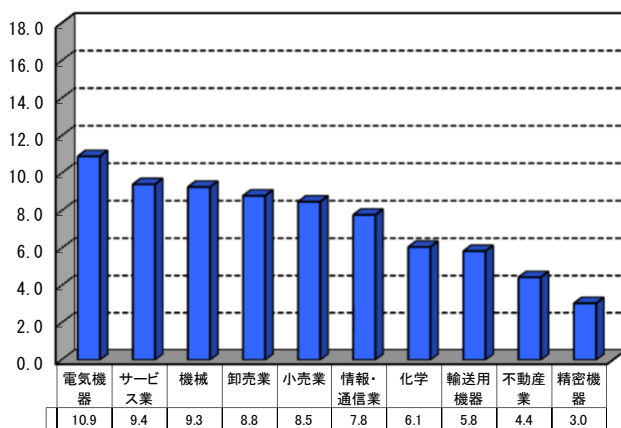
※基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。  
※当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年1月22日および7月22日、休日の場合は翌営業日)に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。

※2015年9月29日(設定日前営業日)を10,000として指数化 (億円)



※当ファンドはMSCI Japan Micro Cap指数(配当込み)に連動するものではありません。  
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
※基準価額は、信託報酬および実績報酬等控除後です。

### 【株式業種別構成 上位10業種(%)】



※比率は対純資産総額

### 【組入有価証券 上位10銘柄】

(銘柄総数:82銘柄)

順位	銘柄	市場	業種	比率(%)
1	TBK	東1	輸送用機器	2.0
2	ブイキューブ	東1	情報・通信業	1.9
3	荏原実業	東1	機械	1.9
4	鈴木	東1	電気機器	1.8
5	東亜ディーケーケー	東1	電気機器	1.7
6	毎日コムネット	東1	不動産業	1.6
7	パスコ	東1	空運業	1.6
8	第一カッター興業	東1	建設業	1.6
9	ピックルスコポーレーション	東1	食料品	1.6
10	コメ兵	東2	小売業	1.5

※略称は下記の取引市場を指します。 ※比率は対純資産総額  
東1: 東証1部、東2: 東証2部、マザーズ: 東証マザーズ、JQ: JASDAQ

※上記記載のうち、純資産総額に対する比率については、マザーファンドへの投資を通じて実質的に投資している各投資資産の時価残高を含めて算定しています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。



# スパークス・プレミアム・日本超小型株式ファンド マンスリーレポート

## 愛称:価値発掘

基準日 2020年3月31日

### ◆株式市場の状況

3月の日本株式市場は、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響で非常に変動の激しい状況で、欧米諸国での感染拡大から海外株式市場の下落を受け、大きく下落しました。値下がりにより割安感が出た銘柄への買い、日本銀行などによると思われるETF(上場投資信託)買い、先物買い、政府の政策への期待などから株価が反発する局面もありましたが、株価下落の歯止めにはなりませんでした。

この結果、TOPIX(配当込み)は前月末比5.99%の下落、当ファンドの参考指数は同5.90%の下落となりました。一方、東証マザーズ指数は前月末比11.50%の下落、NASDAQ指数は7.95%の下落となりました。

### ◆ファンドの運用状況

当ファンドは前月末比9.49%の下落と、参考指数の同5.90%の下落を3.59%下回りました。

当月のプラス貢献銘柄は、ブイキューブ、荏原実業、カネコ種苗などでした。

Web会議などコミュニケーションサービス提供を手掛けるブイキューブは、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中、各企業が出張や外出を控えることで、同社のWeb会議システムの需要が増加していることを受け、株価が上昇したものと考えます。ポンプ・空調など機器卸しから水処理設計・施工を手がける荏原実業は、「相対的な業績の安定感」から選好されていることや大きく下げているところからの反動による株価上昇と考えます。野菜・牧草種子など種苗事業や農薬を手掛けるカネコ種苗は、下落が続いていたところからの反動により、株価が上昇したものと考えます。

一方、マイナス影響銘柄は、ツクルバ、ナルミヤ・インターナショナル、東京ラヂエーター製造などでした。

ITを活用したリノベーション住宅の流通プラットフォーム「カウカモ」を運営するツクルバは、景気減速による中古不動産市場へのネガティブな影響が懸念され、株価が下落したものと考えます。子供服の企画販売を手掛けるナルミヤ・インターナショナルは、新型コロナウイルス感染拡大による実店舗の消費低迷が嫌気され、株価が下落したものと考えます。トラック用ラヂエーターやクーラーの製造を手掛ける東京ラヂエーター製造は、新型コロナウイルス感染拡大によるアジア地域販売台数の減速懸念により、株価が下落したものと考えます。

当月は環境関連1銘柄、サービス関連2銘柄に新規投資しました。一方、大きく上昇していた電子機器関連1銘柄、大きな成長が期待できない食品関連1銘柄を全売却しました。

### ◆今後の運用方針

株式市場は、中国本土の新型コロナウイルス感染拡大の動向を注視してきましたが、欧米諸国への拡大により前月よりもさらに先行き不透明になってきました。世界経済への影響も甚大で、短期予想が非常に難しい状況で、今後発表される業績、経済指標によっては株価のさらなる下落の可能性も予想されます。

しかし、感染症は必ず収束するものであり、また各国政府が大規模な経済対策を準備していることから、目の先の業績に悲観すべきではないと、私どもは考えます。

運用方針としては、平常時に戻った時の企業業績をベースに、既保有銘柄中心に大きく割安になった企業への投資を拡大してまいります。また、このビジネス環境の変化をきっかけに、消費行動やサプライチェーンなどの変化、企業淘汰の可能性、大きく下落した原油価格の影響などを考慮し、組入銘柄の入れ替えを進めます。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。